



第18号

(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

一枚の写真から

この異様な集団は何者かと現代っ子はいぶかしがる。廣讚寺略誌によると次のようにある。

昭和二十年五月十八日 戦災焼失

昭和二十四年三月二十日 仮本堂落慶

昭和三十六年一月十八日 本堂起工式

この写真は起工式後の地固めのエンヤラコである。当時は石山本願寺や吉崎御坊建立の旧様式そのもので人力がすべてであった。

紀平氏が四日市方面から業者を連れてきて寺の近くでメンバーをそろえ、威勢よくエンヤラコをやったのである。

私たちは『今ある生活のすべてを当たり前のことと理解している』この当たり前として受け取るところに問題がある。

廣讚寺の本堂に座る。畳の下の床板その下の基礎石の一つ一つが先人の力によって固められていることを感じなければならぬ。

この作業の方々の法悦の笑みをくみとる必要がある。今日は彼岸である。先人の足跡をたどる日でもある。



秋田政五郎

猪飼市三郎

中島正子
安藤うた子
谷田すえこ
職人

内山あや子
秋田はぎ
紀平
内山あき子

伊藤きくお
伊藤すみ
猪飼とみ
秋田倉太郎
加藤菊次郎

()

猪飼春子
寺西ふみ
飯田操
内山かづえ
津田ゆき
角田はま
梅次郎

()

聖人のおことば

『世尊我一心トイフハ 世尊ハ釋迦如来ナリ
我トイフハ 世親菩薩ノワガミト ノタマヘル
ナリ 一心トイフハ教主世尊ノミコトヲフタ
ゴコロナク ウタガヒナシトナリ スナハチ
コレ マコトノ信心ナリ』(浄土論)

正信偈には次のようにある。

「天親菩薩造論説

歸命無碍光如来」

聖人九十年の生涯のすべては一心にある。現代社会は情報過多であり硬軟真仮こうなんしんけの乱気流の中に我々は生きている。

グルメ世界をのぞいてみるとする。世界の珍味が目前にならべられる。その土地のものをその土地の人が

その土地でいただいてこそ食の意味がある。旅行者の
一半時の一食の経験は物の数にはならない。すべて物
事は大地に根を下ろすことからはじまる。

我らは今まさに念仏の大地に立っている。
天地におはしますよろずの神仏すべて
我らを守らせたもうのである。

この姿こそが一心そのものである。

同朋夏祭

まさ女

合掌の子供にはじめましてと夏祭

ヒラヒラとゆかたのそでの金魚かな

夏祭りさかんなる時驟雨しゅうう来る

ビンゴゲームまず一番は一年生

同朋の夏祭りなり蓮の白

朱夏

えみ女

山里の人情に咲くひめ笹百合

遣り水の庭園巡り夏茶碗

笹百合のやさしく招く里の山

乾坤けんこんの此処に鷹舞ひ朴の花

正調の夏うぐいすに出合ひたり

若かりし日の白昼夢桐の花

洞窟の滴る音や千古より

新緑や名残りゆかしき知足庵

六地藏

(伊藤和美)

かつて稲葉地村にも火葬場があり、六地藏様と観音様が野天に安置されていた。

昭和三十八年頃火葬場は廃止され六地藏様は撤去されました。今は凌雲寺山門前の千太地藏の祠ほくらの中に放置されている。

昔村人が葬儀の時お参りした仏をこのように放置するのはしのびがた

い。
六地藏保存会でもつくって安住の地に安置されることを願っています。



※行事予定(九月)

九月 十二日(土) 七時 同朋委員会・例会

十三日(日) 八時 庭そうじ
(昼おとぎ後、解散)

十九日(土) 二時～四時 学習会

二十三日(祝) 十時 秋季彼岸会

説教 廣瀬純史師

廣讚寺講総会

おかみそり

二十四日(木)

二十五日(金) 三時 彼岸お勤め

二十六日(土) 住職説教

二十八日(月) 十時 二十八日講総会

女人講

※行事予定(十月)

十月 十日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(月) 二時～四時 学習会

二十八日(水) 十時 二十八日講・女人講



廣讚寺 庭そうじ